空高まり、秋深まる。

暑い夏が終わり、秋も深まる「南アルプス」。その麓の地域が、ユネスコエコパークに登録され、来年10周年を迎えます。3000m級の山々が連なる山岳地帯の秋は早く、とても短いです。

いかわね新聞を発行する南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は、南アルプスユネスコエコパークの理念に基づき、今後も静岡県域及び周辺地域の自然環境の保全と利活用、文化の継承を図っていきます。

撮影：榎田善行

ユネスコエコパークに登録された、
静岡市井川と川根本町の
魅力を伝える、地域でつくる新聞

井川と川根をつなぐ いかわね新聞
No.20 特別号

いかわねの人々と共に祝20号！

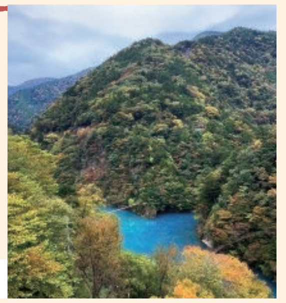
いかわね新聞 第20号　2023年12月1日発行
発行・南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会
〒420-8602　静岡市葵区追手町5の1　静岡市環境共生課内
TEL054（221）1357

【会員】静岡森林管理署、天竜森林管理署、静岡県、静岡市、川根本町、(株)特種東海フォレスト、中部電力(株)静岡水力センター、しずてつジャストライン(株)、大井川鐵道(株)、千代田タクシー(株)、十山(株)、川根本町森林レクリエーション推進協議会、井川山岳会、一般財団法人南アルプスみらい財団
【協力】井川観光協会、川根本町まちづくり観光協会、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会

【会の紹介】南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は、南アルプス周辺地域の自然環境の保全と文化の継承を図り、その持続可能な利活用を推進することを目的とした協議会です。※この新聞では、川根本町の情報を「かわね」と表記しています。

いかわねの紅葉スポット

川根本町寸又峡 夢のつり橋



青い湖面に映る紅葉は絶景です。
夢のつり橋を渡りながら、秋を感じてみませんか？

アクセス	■大井川鐵道「千頭」駅から車で約40分 ■寸又峡温泉第3駐車場から徒歩で約40分
見頃	例年10月下旬～11月中旬

静岡市井川

畑薙大吊橋は、途中から徒歩でしか行けませんが、リピーターも多い井川屈指の紅葉の見どころです。井川湖周辺は、紅葉を近くに見ながら、廃線小路（遊歩道）をのんびり歩いたり、渡船の船上からは、車や徒歩では見えない湖岸の紅葉を見ることができます。

アクセス	■畑薙大吊橋…沼平駐車場から徒歩で約40分 ■井川湖・ダム…大井川鐵道「井川」駅から徒歩で約3分、井川ダム小公園駐車場目の前

見頃		
	畑薙大吊橋	10月下旬～11月上旬
	井川湖・湖畔遊歩道周辺	11月上旬～中旬
	井川ダム周辺	11月上旬～中旬

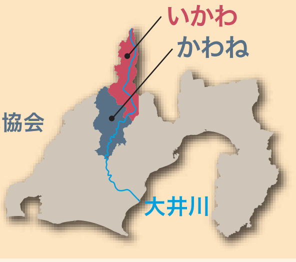
2023 11月～ いかわねのイベントカレンダー

日程	地域	内容
11/16(木)～ 12/11(月)	かわね	道の駅 奥大井 音戯の郷 Chill in KAWANE with twinkle star 星空×アウトドアイベント
12/1(金)～ 2/20(火)	かわね	「奥大井ゆめぐりチケット」販売
12/23(土)	いかわ	リバウェル井川OPEN(予定)
2024 1/20(土)	いかわ	リバウェルの日(予定)
2/4(日)	いかわ	リバウェル井川 雪だるまコンテスト&お菓子まき(予定)
3/3(日)	かわね	お茶の里ファミリーマラソン
毎月第4日曜日	かわね	川根茶を愉しむ会 @フォーレなかかわね茶茗館

※予定は変更される場合があります。

井川ビジターセンター
☎054-260-2377

川根本町まちづくり観光協会
☎0547-59-2746



いかわねで清掃活動を実施しました！

畑薙第一ダム夏季臨時駐車場にて

6月7日(水)に南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会会員20名が、白樺荘から沼平ゲート周辺及び畑薙第一ダム夏季臨時駐車場にて清掃活動を実施しました。2班に分かれ、沼平ゲートから駐車場及び白樺荘から駐車場までの道路周辺を歩きながら520kgのゴミを収集しました。当日の天気は快晴で、蒸し暑い陽気になりましたが、トラックにゴミを載せ終わると、大きな達成感を味わうことができました。

また、10月7日(土)にも南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会、川根本町職員互助会、「日本で最も美しい村」連合の共催で清掃活動が行われました。協議会8名と互助会35名の計43名が、川根本町役場本庁舎と崎平駅に分かれ、ゴールであるフォーレなかかわね茶茗館を目指し、歩きながらゴミ拾いをしました。当日は秋晴れとなり、参加者は少し汗ばみながら、可燃ごみ5袋分と不燃ごみ等を回収しました。参加者からは「意外と拾うことができた」「清掃活動をしていると、声を掛けてもらった」との声が。活動後は皆さん清々しい表情を浮かべていました。

ユネスコエコパーク登録域内での清掃活動は、「自然環境の保全」情報共有や交流の場として「地域の持続的な発展」へとつながっていく活動となりました。

道の駅フォーレなかかわね茶茗館にて

南アルプス 高山植物保護セミナーを開催しました

1.登山中の様子　2.新規防鹿柵設置の様子
3.日の出前の千枚小屋より

静岡市環境共生課では毎年8月下旬に南アルプスの高山植物を保全し、未来に継承していくため、市内高校生を対象に高山植物保護セミナーを開催しています。セミナーでは静岡大学の増沢武弘教授指導のもと千枚小屋周辺の植生について観察したほか、鹿の食害から高山植物を守るため、特種東海フォレスト株式会社協力のうえ防鹿柵を新たに設置しました。2カ所で行った植生観察では鹿の食害の程度によって、植生が異なることを実感。改めて鹿の食害の深刻さや防鹿柵の効果について知ることができました。新規防鹿柵の設置では急斜面をトンカチ片手に登り、設置の方法を学びました。完成した周長約22mの防鹿柵は今後も高山植物を守るために活躍し続けてくれることでしょう。
また、南アルプスの自然の雄大さを体感するため、荒川三山の最高峰「悪沢岳」までの登山を行いました。残念ながらライチョウは見ることができなかったものの、道すがら色鮮やかな高山植物や巨大な赤石（赤色チャート）を発見！無事山頂に着く頃にはすっかり南アルプスの虜になっていました。山小屋のおいしいご飯や千枚小屋からの日の出など、充実した2泊3日の旅路でした。

いかわね新聞　バックナンバー公開中!

前回の19号まで、発行したいかわね新聞のバックナンバーが見られます。
詳しくは「いかわね新聞」とインターネットで検索してみてください。

お問い合わせ先
静岡市環境共生課　TEL：054-221-1357
川根本町観光交流課　TEL：0547-58-7077

南アルプスの理解を深めよう！

井川小中学校×本川根小学校 本川根中学校 交流学習

6月16日(金)に井川小中学校と本川根小学校・中学校の交流学習が、川根本町内それぞれの学校を会場に行われました。この交流学習は、南アルプスユネスコエコパーク移行地域にある学校同士が、共に手を取り合い、南アルプスへの理解を深め、自分たちのふるさとと に誇りをもち、魅力ある地域づくりについて考えることを目的に3年ほど前から始まりました。

中学生は、南アルプスの自然環境の保全や利活用に取り組む「南アルプスみらい財団」を講師に招き、南アルプスの素晴らしさを実感する講義や、同財団の日頃の活動を疑似体験する授業を受けました。また、「人と自然の共生」を学ぶ具体的な例として、井川のおらんど（在来じゃがいも）とスーパーで販売されているメークインの食べ比べ体験も行いました。本授業で生徒たちは、南アルプスが世界的に見ても価値のある場所であることを再認識するとともに、「人と自然が共生する豊かな暮らしとは？」という地球規模の大きなテーマについての答えを、この川根本町と井川から世界に、未来に発信することができる大きな可能性を学びました。

小学生は、ホールアース自然学校の下國先生を講師に招いて、南アルプスの魅力に触れる合同授業を受けました。まずは教室で、南アルプスの環境やそこに関わる人々の活動を教えてもらい、その後、本川根小学校前の大井川の河川敷に行き、いろいろな石を探し、観察しました。それらの石を色別に分けると、赤い石が含まれていることに気づきました。下國先生から、「赤い石は赤色チャートといって、南アルプスの赤石岳から下ってきたものであること」や「大昔南アルプスは海の底で、赤色チャートはプランクトンの死骸が固まってできたものだということ」を教わり、子どもたちは驚いていました。同じ南アルプスの麓に住む井川小と本川根小の子どもたちにとって、共に環境教育を行うことは、大変有意義だったことでしょう。

また、井川小中学校は本年度中学生が卒業すると、小学生のみ在籍の学校になります。大きな転換期を迎えますが、本交流学習を継続し、南アルプスで結ばれた絆をさらに深めていきたいと考えています。

高山植物種類当てクイズに挑戦！

ドローン操縦体験

河川敷で石の観察に熱中する児童たち

川石の特徴を教わる児童たち

「いかわね」のこれからについて
～生徒会長対談～

本川根中学校
井川小中学校

両校の交流授業に際して、井川小中学校生徒会長の佐野さんと本川根中学校生徒会長の山原さんに中学校と小学校の統合に伴う気持ちや、今後の「南アルプスユネスコエコパーク」に対する考えを伺いました。

司会 まずは、簡単な自己紹介をしてください。

佐野 井川小中学校生徒会長の佐野柚月です。

山原 本川根中学校生徒会長の山原綾華です。

司会 最近、はまっていることは何ですか。

佐野 ゲームにはまっています。

山原 音楽を聴くことです。

司会 お二人は生徒会長ということで、どんな学校を目指しているのか教えてください。

山原 「人に任せず、生徒24人全員が責任をもって活動できる学校」を目標にしています。

佐野 「笑懸明」という生徒会スローガンがあります。明るい学校を創りたいと思い、このスローガンを設定しました。

司会 目指す学校に向けて、生徒会としてどんなことに取り組んでいますか？

山原 生徒総会の後に、振り返り集会を行い、生徒一人ひとりが人に任せないで自分事として考える時間をつくりました。

佐野 夏体験教室や地域の福祉施設への訪問活動など、小中学生が一緒に活動できる行事の企画に力を入れています。

山原 井川小中学校は生徒総会はありますか？

佐野 ありません。

山原 2人で話し合って、生徒会活動を進めているのですか？

佐野 そうです。

司会 来年度、本川根小学校と中学校が統合し、義務教育学校になります。そのことについて、山原さんはどう感じていますか？

山原 児童数や生徒数が少なくなっているので、統合することはとても良いことだと感じています。小学生との関わりが今よりも増えると思いますが、これまでも交流を重ねているのであまり心配はありません。

司会 井川小中学校は統合して8年目だと聞きました。小学生と一緒に学校生活を送っていることについてどう感じていますか？

佐野 小学生はとても元気が良いので、学校全体が明るくなります。

司会 井川小中学校と本川根中学校との交流は、ユネスコエコパーク移行地域にある学校同士が南アルプスへの理解を深めるという目的で、私たちが中学校1年生の時から始まったものです。交流学習の感想を教えてください。

山原 小学生の頃は、ユネスコエコパークのことをあまり知りませんでしたが、交流学習をきっかけに深く学ぶことができました。交流を重ねていくことでだんだん理解が深まっていると感じます。

佐野 私は昨年、本川根中学校の裏の大井川で行った「赤石の謎に迫る」という授業がとても印象に残っています。井川小中学校や私の自宅の周りにはたくさん山はありますが、川は少し遠くまで行かないとないため、とても新鮮な学習ができて楽しかったです。

司会 世界的に見ても大変価値のある南アルプスですが、お二人はこれから南アルプスの保全や活用のためにどんな取り組みをしていこうと思っていますか？

山原 私たちがまず、南アルプスについてもっと知ることが大切だと思います。理解をもっともっと深め、自分ができそうなこと、みんなと協力できそうなことを考えていきたいです。

佐野 今日の講師（一般財団法人南アルプスみらい財団）の方から、南アルプスユネスコエコパークのことを知らない人はまだまだ多いと伺ったので、もっとみんなに広めていきたいと思いました。南アルプスの素晴らしさをできるだけ多くの人たちに知ってもらい、たくさんの人たちでユネスコエコパークを大切にしていきたいです。

静岡市環境共生課 私たちも、ユネスコエコパークのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと考えています。そのためのアイディアはありますか？

山原 南アルプスにもっと親しみをもってもらうことが大切だと思うので、例えばゲームをつくって小さな子どもも楽しみながら知ることができたら良いと思います。いかわね地域に暮らす私たちが、より多くの人に南アルプスユネスコエコパークについて知ってもらえるよう、もっとお知らせや呼びかけに取り組んでいけたらなと感じます。

佐野 今日の学習で体験したVRがおもしろいと思いました。実際に本川根や井川に来なくても南アルプスを感じることができると思います。それで興味をもってもらい、今度は実際に足を運んでもらいたいです。

司会 最後に、対談をしての感想をお願いします。

山原 井川小中学校のことをたくさん知ることができて楽しかったです。

佐野 私もです。

山原 私は昨年、総合的な学習の時間で「大井神社」について探究をしたのですが、井川にも大井神社があることがわかって、井川と本川根ってつながりがあるんだなと実感しました。井川と本川根の良い交流がこの先も続いていくといいなと思います。